



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

第41号

平成19年6月30日発行

旧制中学卒業者 3,915名
新制高校卒業者 23,461名
合 計 27,376名

発行
神奈川県立厚木高等学校同窓会

編集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046(221)4078
FAX 046(222)8243
<http://www.atsukou-dousou.org/>

第1回 青春 かながわ校歌祭



「第1回青春かながわ校歌祭」に参加した厚高同窓会（平成18年10月21日・県立青少年センターホール）

母校に対する温かき想い

厚木高等学校同窓会々長

小澤 澄男

(高三回)



同窓会支部の総会やいろいろな催しに、できるだけ出席させていただき、会員の皆さんから、会のこと母校のこと、そして過ぎし日の思い出、将来の夢など多角的なお話を聴くことができました。

大先輩やご同輩、若い人たち等、年代はいろいろですが、この皆さんと話して強く感じたのは「母校に対する温かく強い想い」を共通して抱いている、ということ です。

例えば五月中旬、県教委が県立の進学校十校を「学力向上進学重点校」に指定し、その中に母校の名が無かったとき、私のところへ電話や手紙で「実績ある母校が外れたのはなぜか」「優秀な生徒が他へ流れてしまう」と母校を気づかう指摘がありました。

三年前、ダンスドリル部がアメリカで優勝したときは、盛大な激励会と祝賀会で地元は盛り上がり、北海道や大阪の仲間からも熱い祝福が寄せられたことは記憶に新しいところです。

同窓会のホームページは昨秋立ち上げたばかりなのに早くも国内外から反響が見られるのも、やはり母校を想い同窓の仲間をなつかしむ表れなのではないでしょうか。

皆さんのご理解を得て徴収をはじめた同窓会年会費も、驚くほど順調に協力していただいています。これも会員皆さんの「確実な母校支援を」との念願が込められたもの、と理解しています。

こうした「母校愛」というべき同窓会員の「温かい想い」がいろいろと具現化してゆくと、「みんなで作る同窓会」が力強く推進してゆく、と確信しています。

本部活動報告

年会費徴収はじまる

母校教育振興基金新設 会計は二本立てに

名簿づくりに苦心

昨十八年度の同窓会総会において、新しい会則が承認された。これと同時に、年会費二万円を会員の皆さんから徴収させていただくことが議決された。



いつも活発な同窓会役員会 (19. 6. 9)

年会費の必要性を理解していただいていた。本部で取り組んだのは、この年会費をどんな方法で徴収するかであった。

何回かの検討を重ね①手数料の安い郵便振替を使い、手数料は本部負担②「お願い文」と振替用紙、新会則を封入し会員に送る③郵便料より安いメール便を使う④等を決めた。

しかし大きな問題となったのは会員全員に送るかどうか、だった。



同窓会広報委員会が発足 (19. 5. 27)

はく然と二万数千人の同窓会員に送ると郵送料だけで何百万円となり会費納入との収支が極めてあやうくなる。そこで各支部やクラブOB会にお願いして手持ちの名簿を貸していただくことが最上の方法と意見一致。皆さんのご理解で全支部からお借りできたので、体裁を整えてパソコンへ入力、時間はかかりましたが三千余人への発送もでき、現在納入も順調に進んでいる。

よりよき広報めざし

広報委 取材・編集活動も が発足

同窓会に広報委員会ができ、四月二十八日に第一回の会合が母校で開かれた。

かねてから各支部に選出を依頼していた広報委員に、本部役員が加わって構成された。会合では小澤同窓会長から「今は年に一度発行の同窓会報と、昨秋立ち上げた同窓会ホームページを、よりよくするために意見を出し、編集等もして欲しい。また各支部催しや実績をニュースにする取材活動もお願いしたい」とあいさつ。

議事では委員会活動を支える要綱を承認。役員として委員長に中丸英一氏(本部副会長・高2)、副委員長に小澤久夫氏(伊勢原戸陵会・高21)、小塩恒夫氏(相川戸陵会・高22)を互選した。

各委員には、今期発行の会報にさっそく「支部だより」等を執筆していただいた。

設の「一部活動支援基金」に振り分けた。これに本体会計を加えると同窓会本部の会計は、計三本立てに統一され、すっきりした。催し、海に山に 同窓会の下草刈りは、四月末に行なわれ、多くの会員たちが参加。鎌などを手に汗を流した。最近参加者も多く、山も一段ときれいになっている。

(八面に詳報)

広報委員会名簿

(平成19年4月28日現在・未掲載の支部は委員選考中)

役職	氏名	卒回	所属戸陵会	住所	連絡先
委員長	中丸英一	高2	同窓会本部(副会長)	相模原市相模大野5-4-30	042(742)1341
副委員長	小澤久夫	高21	伊勢原戸陵会	伊勢原市西富岡1001	0463(94)0754
副委員長	中村修三	高22	座間戸陵会	座間市東原3-4-26	046(255)6742
副委員長	小塩恒夫	高22	相川戸陵会	厚木市戸田478-7	046(228)0344
委員	古屋一恵	高28	秦野戸陵会	秦野市本町1-8-17	0463(83)5050
委員	稲泉卓	高3	大和戸陵会	大和市下鶴田2991-18	046(274)5078
委員	池田光儀	高9	相模原戸陵会	相模原市新戸3022-3	046(256)1255
委員	大貫邦重	高16	愛川戸陵会	愛川町半原12	046(281)0014
委員	大貫睦男	高17	御所見戸陵会	藤沢市宮原1541-3	0466(48)5121
委員	池田清三	高19	厚木戸陵会	厚木市泉町6-7	046(228)2210
委員	大塚憲	高18	依知戸陵会	厚木市山際788-4	046(245)5488
委員	山岡清	高21	睦合戸陵会	厚木市及川2-5-39	046(241)7672
委員	毛利昇	高16	荻野戸陵会	厚木市下荻野555	046(241)0132
委員	頼住道夫	高22	小鮎戸陵会	厚木市飯山3219	046(248)2100
委員	石井孝	高18	南毛利戸陵会	厚木市船子1260-3	046(248)1472
委員	山口義章	高15	玉川・森の里戸陵会	厚木市小野1020	046(247)0477
委員	石川武久	高16	清川戸陵会	清川村燗ヶ谷3886	046(288)1981
委員	大津博康	高10	同窓会本部(事務局長)	伊勢原市上糟屋1766	0463(94)3402
委員	志村祐一	高24	同窓会本部(事務局長)	厚木市戸室2-24-1(厚木高校)	046(221)4078
委員	石塚修	高28	同窓会本部(事務局長)	厚木市三田2940	046(241)7399

広報とは「広く知らせる」意だが、現代では一方的に知らせるだけでなく「知らされた側の反応」も読みとる「双方向性」が重要となっている。情報をなるべく多く開示し、広く意見・感想を求めることが真の意味でのコミュニケーションであり、広報のあり方と考えられ、これが会組織のより民主的運営や足腰の強さにつながっていくと期待は大きい。

学校情報

茅賞と特別賞を贈呈

文武両道に励んだ二人



本校五十九期の卒業式は三月二日に行われたが、今期は文武両道に励んだ男女二人の卒業生に対し同窓会から茅賞と特別賞を贈呈した。

茅賞を受賞したのは田中勝利君。一年生の時に生徒会長に選



ばれ、連続で二期務めた。スポーツは硬式テニスが得意。同窓会特別賞に輝いたのは石川純子さん。バレー部のエースとして活躍。同部が二年連続で関東大会に出場した原動力的存在。

最優秀賞に野澤さん

文芸コン・イメージキャラ



全国高等学校文化連盟など主催「第二十一回全国高校文芸コンクール」の二十周年記念イメージキャラクター「最優秀」に母校一年下組(当時)の野澤明里さんの作品「文ちゃん」が選ばれた。「文芸」という言葉から桜文鳥

をイメージ、頭に鉛筆の先を切りとった帽子をかぶせ、腹と羽根の部分は原稿用紙のマスの目のガラをかわいらしく描き、文芸などの創作意欲を表した一とか。パソコンのペイントショップで描いたそうだが絵のうまさと共に小気味よいセンスを感じる作品だ。

母校の応援に行こう!!

高校野球神奈川大会

夏の甲子園をめざして、神奈川大会が開催されます。(同窓会ホームページ参照)

(1回戦) 7月12日(木) / 第2試合 14:30~(予定)

相模原球場 「川崎総合科学」

(2回戦) 7月15日(日) / 第2試合 13:30~(予定)

藤沢八部球場 「厚木北」と「松陽」の勝者

感謝とこれからの

母校への想い

山田和彦(高二四回)



平成十六年四月、十九年ぶりにOBの教頭として、「尼の泣き坂」を登った時は、身の引き締まる思いがいたしました。母校に帰るとは、教員として、この上のない喜びであると同時に、ある種独特のプレッシャーがございました。ただ、そのような中、各支部戸陵会に出席させていただき、OB・OGの方々から温かいお言葉をかけていただいたことが何よりの励みになりました。心より感謝申し上げます。

ところで、当時の厚高の状況を見たとき、すべてではないにせよ、後輩の在校生は、「その師を尊ばず、その資を愛せざれば、智あるといえども大いに迷わん」という状況にあり、この事態をなんとか

厚木高校に着任して

副校長 萩原 憲



本年四月、県立茅ヶ崎北陵高校から着任いたしました。着任式で生徒諸君に「名門厚木高校に着任でき光栄です。」と挨拶しましたが、その気持ちはますます強いものになってきました。以前、厚木高校と同じような伝統校(県下でも最も古い県立高校)に着任した先輩が、「伝統校の重みというのは半端でないよ。色々な面でそれを感じるよ。」と話していたことが妙に心に残っていました。厚木高校に来てまさにその言葉を実感しています。

先日、県が指定する十校の「学方向上進学重点校」(スーパー高校)ではなく、「発展的な学方向上重点推進校」の六校に指定されたことが新聞発表されたときに、多方面から反応の多さにびっくりしました。もちろん、在校生のみならず同窓生の皆様からも多くのご意見を賜りました。本校に対する社会の期待や、関心、先輩方や在校生の母校愛がいかに強いかわかっています。また創立百周年記念事業に際しても同窓会「億い出の杜」は県下有数の進学校であり、スー

パー高校に指定された学校に勝るとも劣らない実績を残しています。また、学方向上に向けて、新入生合宿オリエンテーション等の新しい試みも行われています。この学校で、先生方と一緒に、更なる伝統をつくっていきたく思っていますので、戸陵会の方々のご支援もお願い申し上げます。時間ができたときは生徒諸君と部活動(ソフトテニス)で汗を流せればと楽しみにしています。



通い慣れた正門前の並木道も懐しい

十九年間、母校に奉職

大銀杏 尼の泣き坂 山笑ふ

大貫 睦 男(高十七回)



私儀去る三月三十一日付をもちまして定年退職を致しました。教員生活最後の十九年間に母校で終えられた幸せを改めて噛みしめています。教師として四十三、四十八、五十三、五十九期生を巣立て、今は達成感・安堵感で一杯です。教え子達が多く分野で立派に活躍される事を期待しています。願ひますれば創立九十周年を迎えるに当たり、地区支部会活動が活発となり、同窓会役員をはじめ実行委員会有志のご協力ご支援にて各事業を無事成し遂げる事ができました。また創立百周年記念事業においても同窓会「億い出の杜」の整備や「記念誌」編纂にも微力ながら携わることができました。同窓諸兄諸氏には公私共に心温まるご指導を戴き、また皆様方に支えられ大過なく今日を迎える事ができた事を謹んで厚くお礼申し上げます。

今はのんびりと旅行などとして、あとは小さな畑いじりや孫達の遊び相手になって家族とのふれあいを楽しんでいきます。これといった趣味もなく、さりとして六十の手習いといった気もおきませんが、多少世間にご恩返しでもできればというが只今の心境です。末筆ながら、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

支部会便り

「相模原両青会」

小川先輩を偲ぶ

安藤 和次郎 (高九回)

私たちが相模原両青会の生みの親である小川勇夫氏(昭和二十四年卒・高一回生)が、三月二十一日に逝去されました。

小川先輩は、県議会議員四期を経て、平成九年一月、第六代相模原市長に就任。三期十年にわたり「未来を見据えたまちづくり」「街角からの発想」「公平・公正」を信条に市制運営を担われ、特に「津久井四町との合併」の実現に努力されるなど、相模原市発展に尽くされました。

小川先輩は相模原両青会を平成元年一月十八日、橋本にあった平安閣で、同期生等と共に相模原にも支部をつくるため同窓会名簿から市内の卒業生一四〇〇余名を抽出し、手書きで総会通知を出したとのことでした。

それ以来、小川先輩は自分の事務所を両青会の事務局に提供し、会員の名簿も整備。昨年本部への



市制五十周年を記念して 億万智の歌碑(モニュメント)の除幕式 小川市長と億万智さん、橋本駅北口線通りにて

同窓会名簿の提出時では旧制中学卒一〇七名、高校卒七八九名、計八九六名を抽出できました。役員一同感謝しております。小川先輩は、県園芸試験場相模原分場で、岡部誠氏(高九回卒)等が改良した照手姫のハナモモの普及には特にご支援いただき、開花時期にはご自宅のハナモモを切り取り市役所の秘書室に飾り、来客へ地元産と紹介。また地元産のお酒「てるて姫・をぐり」を愛し、宣伝していただくなど常に身近なところから地域おこしを实践されておりました。

また、市制五十周年を記念して照手姫の「創作オペラ」(高橋鉄雄氏・高七回卒)や億万智さんの歌碑(モニュメント・橋本駅北口線通り)の除幕式など、イベントには快く参加し、常に市民と共に行動されました。

昨年十月の相模原両青会には新相模原市合併を控え、元津久井町長天野望氏を講師に迎え「水資源開発と都市の発展」を講演して頂き、参加者の大好評を得ることができました。これも偏に小川先輩のご尽力の賜物と思っております。

末筆となりましたが小川先輩の葬儀には、小澤会長、志村事務局次長はじめ同窓生が出席し別れを惜しんでいました。また母校をこよなく愛した小川先輩に「厚高校歌の歌誌」を同級生が棺に入れて送別したとのこと。こころか

ら小川先輩のご冥福をお祈り申し上げ、ご遺徳に報いるよう魅力ある支部の発展に向けて役員一同努力したいと念じております。

第九回大和戸陵会総会

盛会裡に開催

広報 稲泉 卓 (高三回)

第九回大和戸陵会総会は、会員皆様のご協力により多数の方の参加を得て、盛会な会となりました。以下のとおりご報告致します。

一、期 日 平成十九年六月十日 (日)

二、場 所 大和グランドホテル
三、時 間 午後三時三十分より
四、出席者 甘利明経済産業大臣 始め総勢約四十名



甘利明経済産業大臣も出席、総会は盛大に行われた

「座間戸陵会」

「ジャンゴル」の仲間

門倉 英夫 (高四回)

釣り仲間、飲み仲間、囲碁仲間など仲間にはいろいろあるが、なんとと言っても同級生ほど気楽に付き合える仲間はないだろう。わが厚志会の仲間は卒業以来五十五年になるから、中高の六年間を

加えると還暦を過ぎた付き合いになる。思えば長い付き合いである。現役時代は、それぞれの職場でひとかどの人物になっていた人たち。がリタイヤした今は、もとの悪戯時代に戻ったつもりで付き合い

る支部の発展に向けて役員一同努力したいと念じております。

五、総 会 午後三時三十分より 約三十分

六、座談会 演題「今、学校では」
講師○大和市立大野原小学校 校長 石川創一氏 (高十八回)

○横浜国大教育人間科学部附属鎌倉中学校 副校長 中田朝夫氏 (高二十八回)

○神奈川県立大和西高等学校 校長 井桁修氏 (高十八回)

司会○大和戸陵会会長 座間茂俊氏 (高一回卒)

七、懇親会 午後五時三十分より
総会では、熱心に討議され、座談会では現在の問題点等色々、参考にされたと思う。また懇親会では和気あいあいの談笑があり、第九回大和戸陵会総会も有意義なうちに終了し、次回に期待がもたれる。

いをしてる。年四回のゴルフコンペも呼び捨てコンペといつて「さん」付けはしない。毎週集まる麻雀仲間も同様である。ただ高校時代と違うのはアルコールが解禁になっていないことだ。

この麻雀仲間は、老年期を楽しむ意味で「楽老の会」といって、毎週水曜日に三々四卓を囲んで大騒ぎしている。よくもまあ飽きもせず集まるものだと思うが、家に



60年以上の付き合いになる麻雀、ゴルフの仲間

「津久井支部会」

後輩たちの部活動への

支援募金を行う

出席いただきました。旧制厚木中学校時代の卒業生が十三名、新制高校卒業生は百七十名ほどが名簿に掲載されていますが、例年その約一割程度の出席です。

例会では学校の近況の報告をいただいたり、旧制の会員からの寮での生活やほぼ二十キロの未舗装の道を実用自転車通学したこと、ユニークな先生方の逸話など卒業期を越えて話題に花が咲きます。なお例会の際には、毎回出席者から母校の後輩たちの今後の活躍を期待し、部活動などへの支援募金を行っています。



毎年2月に同窓会を開催

津久井支部では、毎年一回、二月の第一日曜日に定例の同窓会を、学校側から校長または教頭と担当の先生にご出席いただいで開催しています。今年是小澤会長にもご

いると邪魔にされているか、亭主元気で留守がいいのか、いずれにせよ家にはいない方が喜ばれているのではないだろうか。

皆が集まれば話題になるのは、健康と在学中の思い出話である。医者と薬剤師が仲間内にいるので健康面では安心している。対戦中は禁煙を守っているものの、酒は別である。

狂飯はおにぎりで酒が茶代わりである。「お湯割り」「日本酒」「ビール」といった注文に「対戦待ちの者が嫌な顔一つせず給仕をしている。これもお互いに生徒時代の総てを知り尽くした同級生ならではの無礼講である。」

老年期に毎週麻雀やゴルフを楽しんでいる仲間はその多くはないだろう。そのせいか水曜日を待ちわびている者もかなり多いようだ。そんな仲間が私は大好きだ。

〔愛川戸陵会〕

「脳血管障害について」の講演、大好評!!

一、同窓林「憶い出の杜」(愛川町半原)の整備

平成十九年三月三十一日(土)同窓林「憶い出の杜」の手入れを行いました。同窓会本部及び各地区からの会員もお集まりいただき、お花見をかねて親交を深めました。

中には、日頃の運動不足が如実にあらわれてへばってしまつた方もいましたが、参加者皆無事に、作業を終りました。お疲れさまでした。

二、平成十九年度第十七回愛川戸

総会総会

し、佐々木愛川戸陵会会長の進行のもと、前年度の事業報告及び会計報告が順調に承認されました。

続いて、小澤本部同窓会長の新体制のもとでの同窓会「みんなで参加し、みんなで作る同窓会」の運営についてと、また、厚木高校難波淳一教頭の、厚高の現況と教育方針について、まさに熱弁のご挨拶を頂いた後、恒例となつておる記念講演にうつり、今年度は、田口芳雄氏(高二二期卒、聖マ



他支部からの応援もあつて下列り作業はスムーズに(19.3.31)



盛会だった第17回愛川戸陵会総会

「サン・パウロからこんにちわ」

石井 孝(高二八回)



ブラジルのサンパウロで活躍中の石井孝氏

サン・パウロの大晦日(Reveillon)は、都市忘れ国際市民マラソン(僕が勝手に命名)が毎年開催され、ブラジル全土から大勢の市民ランナーが集まり十五キロを走ります。パウリスト大

通り(片側四車線)は午後から通行止めとなり、ランナーと夜の新年カウントダウンの会場となります。当日は大雨でしたが、色々なコスチュームに身を包んだ市民ランナーが思い思いのスピードでかけて行きました。僕は、バルセロナにいる時、子供たちと一緒にモンジュイックのオリンピックコースを走る大会(十二キロ)に出たことがあります、それよりも派手で大騒ぎという感じでした。大雨で写真が撮れなかったのが残念ですが、走る人、それを見る人ともにとても楽しそうでした。

トルのところにはステージができてそこで、ブラジルの人気歌手、バンドが大ボリュームで歌い、踊りそれに合わせて会場の人々も歌い、踊るのです。司会者の話だと二百万人がここに集まつたと言っていました(じ)。午後十一時三十分、ブラジルロック界の女王、リタ・リー(Rita Lee)の登場でいよいよクライマックスです。彼女は一九四六年十二月三十一日生まれで、この日がなんと六十歳の誕生日で更に盛り上がりました。六十歳ですよ、六十歳!三曲ほど歌つたあとカウントダウンの開始です。デス(七)、ノビ(九)、オイト(八)、セッチ(七)、と大合唱!ついにフェリス・アノ・ノボ(新年おめでとう)となり、同時に紙吹雪、花火、ビールの雨、抱き合い、キスの嵐、プレミアのパンダナが飛び交い騒然として声

愛川町の同窓生(中三十六回卒、高二五回卒)による和やかな宴会となりました。年代をこえて、同窓の絆を深め名残を惜しみつつおひらきとなりました。

が聞こえませんが、僕の横には、コロンビア人で大阪で三年間日本語を勉強した若者がいて「ニホンジンデスカ」と聞いてきたときには驚きました。ひととき日本語、スペイン語、ポルトガル語で話し、彼は、サン・パウロは南米一だと興奮しながら言っていました。パウリスト(サン・パウロっ子)のパワーはスゴイ!

Tchau!

「プロフィール」

厚木連合戸陵会広報委員でもある神奈川県警の石井孝警視(四十九歳)は現在、技術協力プロジェクト「地域警察活動」のJICA専門家として、ブラジル・サンパウロ州軍警察とともに、同州の治安向上のため日本の経験を生かした地域警察活動強化に奮闘しています。

〔伊勢原戸陵会〕

大津新体制のもとで総会開催

それぞれの厚高時代にタイムスリップ

伊勢原戸陵会広報委員

薫風漂う五月十二日、第五十七回伊勢原戸陵会総会が大津新会場のもとで本部同窓会長、高等学校教頭、近隣同窓会から来賓をお迎えし、六十四名の参加者と四名の新入生の出席を得て盛大に開催されました。

新体制での初めての総会、今年



第57回伊勢原戸陵会総会(平成19年5月12日) 於こみや

は天候にも恵まれ記念写真も五月晴れのもとで撮影できました。さて、写真には新入生は勿論ですが、中二十三回(昭和四年三月卒)の大先輩から高四十三回(平成三年三月卒)のニューフェースとその差六十二歳。まさに伊勢原戸陵会ならではの歴史と伝統!また、高四回からも「厚志会」十人が殴り込みをかけ結束ぶりを誇示していました。こうした、組織外での縦の繋がりが、なかなか味わえない雰囲気になつてしまつても先輩・後輩だなど感じました。

懇親会も終了時には必ず校歌斉唱をします。今年は、高二十一回のリードで「それぞれの厚高時代」にタイムスリップ!!。年齢を、現実を忘れこの時はかりはスツカリ厚高ボーイになりきり充実感を味わつたひとときでした。歌い終えたその顔には疲れを感じない「満足感と充実感」が漂い役員一同来年も頑張ろうと決意しました。

〔厚木戸陵会〕

明治四十二年の

第七回運動会の絵はがきから

飯田 孝(高十三回)

第七回運動会は、明治四十二年(一九〇九)五月八日に行なわれた。発行所竹村商店は厚木市東町

に店舗をかまえていた書籍・文具商。明治末期から昭和初期に厚木の絵はがきを数多く発行した。第

三中学校第一回卒業生に竹村義司がいる。

大正十二年(一九二三)九月の関東大震災以前、校庭は校舎の東側にあった。右側の建物は生徒控所、その左側は湯呑場。左奥は正面校舎。

「神奈川県史」通史編四近代・現代(一)八五九ページには、ここで紹介したのは別の神奈川県立第三中学校運動会写真が掲載されている。



明治42年の県立三中の運動会が絵はがきに

「依知戸陵会」

依知戸陵会の会長は

弁論で二年連続全国制覇を

成し遂げた伝説の人

大塚 憲 二(高十八回)

戸陵会の役員としての活動はほんの数年でしかないが、私は身近な所で思わぬ才能・個性に出会い驚かされている。先輩にも後輩にもである。現会長の桜井晃先輩もその一人。厚高弁論部が全国にその名を轟かせ頂点にあった時代、五十一年前、二年連続で全国優勝を遂げた人である。そして二回目の優勝時の演題は「人生の底を見つめて」だったという。十七歳にして、これですか。私は愕然としました。今年還暦を迎えた私など未だに「人生の底を見つめたこと

はない」からである。すごい人があるものである。身近にもう一人先輩がいる。副会長の都高泉先輩である。山口巖雄厚木市長(高十三回)時代、助役として市政を支え、市長が交替した現在も副市長として活躍中の人である。私の知る限り、大学四年間×三六五日を麻雀で明け暮れていた人である。麻雀に負けると、小田急新宿駅で切符切りのバイトをやっていた人である。この先輩にもすごい才能を感じるこの頃です。依知戸陵会は今現在五〇〇余名の同窓生がいま

す。この内、名前と顔が一致するのは五〇名足らずにすぎません。後輩にもさまざまな才能と個性があるのだろうか。新しい出会いを数多くしたいものであるが、かなわぬ夢のまま終わってしまうのだろうか。

現在の依知戸陵会の役員

会長 桜井 晃(高9)

副会長 小林知弥(高8)

座間清二(高10)

齊藤 章(高11)

都高 泉(高17)

幹事長 伊藤修治(高17)

幹事 厚木連合事務局長

会計 白井 敏(高13)

会計監査 大塚憲二(高18)

幹事 林 好朗(高11)

幹事 厚木連合広報副委員長

幹事 厚木連合ゴルフ副委員長

幹事 安本高男、奈良親、吉川欣弥、大

計 齊藤淳(会計監査) 鈴木順一

顧問 倉田永治、飛鳥田養、

関根俊幸、大塚進一、梅澤行次

「荻野戸陵会」

後輩・横内謙介君の

観劇会を初めて開催

会長 内 田 徳 孝(高十回)

荻野戸陵会には、厚木市の北西に位置する、旧小田原藩山中陣屋のある地域です。祖母の話によると当地では、明治維新前に寺子屋が開かれ、後に荻野新法界寺にその場を移したそうです。

それが現在の県立厚木東高校の礎になったと言われております。

当戸陵会は厚木高校百周年を迎えるに当たり、厚木連合戸陵会の一つの支部として、この地に産声を上げた次第です。

難波春美先生、木矢純夫先生を相談役顧問に、齋藤英夫先生、奥脇一夫先生を始め地域役員のご尽力に依り素晴らしい会を運営しています。毎年六月には総会を行い、本年の事業内容としては、ゴルフコンペを催し、多数の参加があり

「小鮎戸陵会」

飯山の七不思議

護岸壁画の修復を実施

小島 富 司(高十八回)

小鮎戸陵会(志村昂二郎会長) (高十五)では、郷土・小鮎の美しい自然や優れた文化を守り育てる積極的な活動を展開しております。最近では、地域の人たちとともに、小鮎川(飯山の七不思議護岸壁画)「飯山親音人口付近」の修復作業を実施しました。

飯山の里には、元々地域の古老

から語り継がれてきた不思議な昔話があります。例えば「水が枯れない白山池の霊水」「河童伝説のある恩曾川の片栗の葎」「飯盛山の米研ぎ水」など。

これらの話を次の世代に是非とも伝え残したい、さらに形のあるものに創り上げたいとの願いの下に、平成七年に中飯山地区青少年

おまけ付き。最近同じ町内に高二回の飯島博之氏の居住が判明。実に奇遇という他はない。更なる楽しみに厚高野球部OB会への参加がある。現会長の稲泉卓先輩(高三回)をはじめ、長老の熊坂利夫氏(中四十一回)、同竹内吉治氏、関野太一氏(高二回)以下二十余名が今年も出席。各自の自己紹介で大いに盛り上がる中、最近母校野球部が二十一世紀枠での「甲子園出場」の夢が俄かに現実味を帯びて来たとの噂に、一同俄然色めき立つ場面も。

いずれにせよ、母校に関する情報、同窓生諸氏の活動状況には、全国各地から大いなる関心をもって注目していることは確かだ。戸室健児よ、母校益々の発展に向けて力強く結果しよう。

(小早川氏は北海道旭川市在住)

集い、例年静岡遠征は欠かさない。

今年北海道に渡って五十年たつが、幾つかの思わぬ出会いに驚く。当時北大教授だった小山富康、北見製糖の江波亮両氏、高校野球大会でNHKの小林昭彦氏と。更に旭川で北炭勤務の齊藤恭範氏(高五回)との出会い、後に同氏の息子まで教えるという



「健在なり、戸室健児」

小早川 恒 徳(高四回)

する情報、同窓生諸氏の活動状況には、全国各地から大いなる関心をもって注目していることは確かだ。戸室健児よ、母校益々の発展に向けて力強く結果しよう。

いずれにせよ、母校に関する情報、同窓生諸氏の活動状況には、全国各地から大いなる関心をもって注目していることは確かだ。

(小早川氏は北海道旭川市在住)



51年前、全国高等学校校論大会で優勝した桜井晃(旧姓井上)さん。この時は、厚高の旧講堂が晴れの舞台だった。

健全育成会の活動で、地域の小学生が中心となり、この「壁画」に仕上がりました。

今回は、地域の活性化事業に取り組み「みどり」と清流のふるさと創造委員会（伊藤裕太委員長）による壁画清掃と色の塗り直し作業となりました。

地元中飯山地区の消防団の皆さんにも清掃作業に役かっていた頂きました。本会は、地域の文化づくり・コミュニケーションづくりにより邁進していきたいと考えております。



地域に伝わる昔話が壁画に

特攻隊で沖縄本島沖に散華した

横山忠重さん（中三十四回）



り海軍機関学校へ、四十二年、同校卒、茨城県百里基地で特攻訓練を受け九州へ向われました。横山家の屋敷にある忠魂碑には享年二十三歳八ヶ月。任 海軍中佐 叙勲四等賜旭日章 以下略。

海軍機関学校出身の半数以上の方が不帰の客になられたそうです。

大本営参謀本部は四十五年四月六日を沖縄総攻撃開始と決定同日、六日、第一正統隊の隊長横山忠重大尉以下二十人は鹿児島第二国分基地を離陸、二人乗り九十九式艦上爆撃機十機編隊であった、同隊員全員本島西北側海域で敵艦に体当たり攻撃、戦死。…（中略）

以上特攻隊慰霊遺影会発刊「特別攻撃機」（偕行社）より

横山忠重さんは、小学校の頃から成績優秀で旧制厚木中学よ

〔南毛利戸陵会〕

高松山のハイキング

下山後の一杯が格別

幹事長 高澤 浩 道（高十五回）

南毛利戸陵会は設立されて以来会員の親睦、向上を主眼におき、気張らず身近な活動を続けております。そこで昨年の秋からの主な活動状況を御紹介致します。

○高松山ハイキング（実施日 平成十八年十一月四日）

高松山は明治天皇が明治十四年四月に近衛兵演習のご統監の目的でお立ち寄りになられた山で、それ以来地元を始めハイカーの憩う所となっております。我々の年代にとっても懐かしい山であります。当日の参加は地域内行事と重なったため十三名（懇親会含む）と少なめでしたが、厚高正門前で写真撮影後、愛名へと向かい妙昌寺境内で小休止。そして頂上を目指すのがそれぞれ、年相応に息が切れ脚が動かず、それでも到達し昼食をとる。おにぎり、弁当がこんなにもうまく感じたのは何十年ぶりか？



厚高正門前で記念撮影し
いざ高松山へ

○幹事総会

（平成十九年二月十二日）

今年度は幹事役員総会で開催した。

○第三回ゴルフコンペ開催。

平成十九年六月六日（水）

本厚木CCを会場に二十八名の

レベルの高い、熱い戦いでした。

今後も役員と相談し、会員が気

楽に参加でき、楽しめる活動を進

めていけたらと考えます。

〔玉川・森の里戸陵会〕

県下最大の酒蔵を見学

玉川・森の里戸陵会では平成十八年度事業計画で決定しておりました「黄金井酒造の見学」を十一月四日に実施致しました。

黄金井酒造は玉川森の里戸陵会

長職を務められた歴史を持つ造り酒屋です。

当日は会員十五名が参加し、「酒造りのビデオ鑑賞に始まり、びん詰工場の見学、きき酒」と全ての工程に黄金井会長自ら立ち会っていただき、かつては「越後杜氏」が行っていた技を自前の杜氏を育成しようとの方針の下、平成十五年から地元杜氏による酒造りを開始したこと。また、地元「七沢里山の会」の作った米による酒造り、清酒の酒粕のみを使った焼酎、清酒造りの技を生かした地ビール等。

伝統を守るだけではなく地元に着し、視野を広くもって酒造りに邁進していること等の説明を受け、一時間に及ぶ見学を終えました。終了後は、隣接の黄金井酒造直

「新潟戸陵会」が発足

「新潟戸陵会」が発足

が発足

最新版名簿によれば新潟県内には二十名ほどの厚高卒業生がいます。以前から一度同窓会をとの声をあげていたのでありますが、実現にいたりませんでした。ようやく昨年十一月に新潟市で初めて同窓会を開くことができました。八回生から四十二回生まで、いろいろな

分野で活躍中の八名が参加しました。故郷や母校の話に時を忘れ、世代や分野を越えていい交流ができました。これを機に同窓会本部の協力をえながら、新潟戸陵会へ発展させたいと願っていたところ、六月初旬正式に会が発足しました。

○会長 青木茂治（高九回）

○会員 齋藤勝司（高八回）

笠井 弘（高十五回）

佐々木 健（高十五回）

樺葉哲男（高十九回）

土川幸三（高十九回）

吉田久美子（高二十回）

宗村敬章（高三十回）

富井京子（高三十二回）

野中はるみ（高三十五回）

小田史彦（高四十回）

須山 司（高四十二回）



厚高正門前で記念撮影し
いざ高松山へ

厚高正門前で記念撮影し
いざ高松山へ

校歌祭に参加しよう!!

10月13日・県立青少年センター

昨年秋、初めて開催された「青春・かながわ校歌祭」は県立高校二十二校の同窓会が、現役の生徒と共に参加し大成功を取めた。

わが戸陵会も、ダンスドリル部の三十二名の生徒を合わせて百余名の大合唱団を編成し、揃いの「校章入りネクタイとエンジの鉢巻き」も鮮やかに「戸室の丘辺」を歌い上げた。応援団のリードも

決まり、マスコミの反応も大好評であった。

《第二回かながわ校歌祭》は、この秋十月十三日(土)に昨年と同じ横浜の県立青少年センターで開催される。大勢のご参加をお待ちいたします。

〈申し込み先〉
学校内、志村先生 または近藤副会長

第七回地引き網大会開催さる

獲物を狙う鳶や鳥

五月四日(金)、鶴沼海岸(堀川網)にて御所見戸陵会主催の第七回地引き網大会が盛大に行われ

た。同窓会本部からは小澤澄男会長をはじめ副会長の中丸氏が参加され、各地区支部会からは相模原

を兼ねイベントも盛り沢山、会員相互の親睦も図られ、子供達も元氣よく波打ち際に遊ぶ姿に満足感

両青会、愛川戸陵会、清川戸陵会、厚木戸陵会、玉川・森の里戸陵会より会員及びご家族の参加があり、延べ八十名に達した。天候に恵まれ風も穏やかで夏目という最高の条件のもと、午前十時の引き上げ合図により一斉に仕掛けの小網を力強く手繰るとシコイワシやアジがたくさん獲れた。皆のお目当てのシラスは思った通りには取れなかったが、トンビやカラスは海の幸を目指して急降下、子供ははるか大人も空を見上げながらの危機管理を余儀なくされた。宴会場はすでに仲間との語らいに絶好調のグループ、事前に用意したバーベキューの肉や採れ立てのタケノコの刺身、そして捕れた魚の天ぷらや冷えたトマトのかぶりつき、はては二十kgもあるマクロの解体ショーを含めイベントも盛り沢山、会員相互の親睦も図られ、子供達も元氣よく波打ち際に遊ぶ姿に満足感

同窓会本部役員・顧問等名簿	
理事	難波 浩 (高11)
〃	城所 文洋 (高11)
〃	杉田 泰繁 (高14)
〃	曾根 秀敏 (高14)
〃	熊坂 恭司 (高15)
〃	新倉 正治 (高15)
〃	志村 昂二 (高15)
〃	伊藤 修治 (高17)
〃	梅田 麗子 (高22)
〃	高橋 昌和 (高27)
〃	山本 善一 (高30)
〃	大津 博康 (高10)
〃	志村 祐一 (高24)
〃	石塚 修泰 (高28)
〃	足立 原 (高12)
〃	山田 恒雄 (中27)
〃	館盛 勝弘 (高14)
〃	笠間 城治郎 (高14)
〃	甘利 明 (高20)
〃	内野 優 (高26)
〃	渡辺 均 (高29)
〃	伊藤 博 (中21)
〃	難波 春美 (中33)
〃	一杉 好人 (中34)
〃	佐藤 弘代 (中36)
〃	小島 三皓 (中39)
〃	長塚 安幸 (高3)
〃	堀江 政伸 (高3)
〃	葉山 岳夫 (高7)
〃	高橋 徹也 (高10)
〃	近藤 英雄 (校長)
〃	萩原 憲 (副校長)
〃	難波 淳一 (教頭)
事務局長	山田 恒雄 (中27)
事務局長次長	館盛 勝弘 (高14)
〃	笠間 城治郎 (高14)
〃	甘利 明 (高20)
〃	内野 優 (高26)
〃	渡辺 均 (高29)
〃	伊藤 博 (中21)
〃	難波 春美 (中33)
〃	一杉 好人 (中34)
〃	佐藤 弘代 (中36)
〃	小島 三皓 (中39)
〃	長塚 安幸 (高3)
〃	堀江 政伸 (高3)
〃	葉山 岳夫 (高7)
〃	高橋 徹也 (高10)
〃	近藤 英雄 (校長)
〃	萩原 憲 (副校長)
〃	難波 淳一 (教頭)
名誉会長	山田 恒雄 (中27)
顧問	館盛 勝弘 (高14)
〃	笠間 城治郎 (高14)
〃	甘利 明 (高20)
〃	内野 優 (高26)
〃	渡辺 均 (高29)
〃	伊藤 博 (中21)
〃	難波 春美 (中33)
〃	一杉 好人 (中34)
〃	佐藤 弘代 (中36)
〃	小島 三皓 (中39)
〃	長塚 安幸 (高3)
〃	堀江 政伸 (高3)
〃	葉山 岳夫 (高7)
〃	高橋 徹也 (高10)
〃	近藤 英雄 (校長)
〃	萩原 憲 (副校長)
〃	難波 淳一 (教頭)
監査	大野 調男 (高11)
〃	八木 一郎 (高14)
〃	篠崎 源太郎 (中31)
〃	壁 義彰 (中33)
〃	佐藤 弘 (中35)
〃	山田 恵一 (中37)
〃	八木 伸一 (中40)
〃	中川 淳史 (中43)
〃	赤井 孝一 (高1)
〃	渋谷 正巳 (高2)
〃	沖津 綏夫 (高2)
〃	座間 茂俊 (高2)
〃	横山 義一 (高2)
〃	桶泉 卓 (高3)
〃	宮島 實 (高3)
〃	柏木 稔 (高5)
〃	長田 敬幸 (高7)
〃	川田 善久 (高7)
〃	萩原 香織 (高8)
〃	朝生 旭 (高9)
〃	櫻井 晃 (高9)
〃	大貫 隆弘 (高9)
〃	青木 茂治 (高9)
〃	若林 伸治 (高10)
〃	佐藤 忠一 (高10)
〃	佐々木 力夫 (高10)
〃	内田 徳孝 (高10)
〃	石川 範義 (高10)
〃	長谷川 和生 (高10)

同窓会支部・会長名・連絡先一覧

●伊勢原戸陵会	会長 大津 博康 (高10)	伊勢原市上粕屋1766 ☎0463-95-2278
●桑野戸陵会	会長 八木 伸一 (中40)	桑野市本町1-3-1 ☎0463-81-1666
●津久井支部会	支部長 佐藤 弘 (中35)	城山町川尻1661 ☎042-783-1183
●平塚支部会	会長 沖津 綏夫 (高2)	平塚市大神2760 ☎0463-55-0682
●横浜会	会長代行 長田 敬幸 (高7)	綾瀬市綾西3-14-15 ☎0467-78-5762
●座間戸陵会	会長 瀬戸 宏孝 (高4)	座間市座間1-3105 ☎046-255-0062
●相模原両青会	会長 篠崎源太郎 (中31)	相模原市田名4986 ☎042-761-6931
●愛川戸陵会	会長 佐々木力夫 (高10)	愛川町半原653-1 ☎046-281-0149
●川崎市多摩区生戸陵会	会長 町山 良行 (高11)	川崎市多摩区東生田1-133 ☎044-900-1429
●綾瀬戸陵会	会長代行 新倉 正治 (高15)	綾瀬市上土棚5-5-21 ☎0467-78-1370
●海老名戸陵会	会長 森田 完一 (高5)	海老名市国分北1-406 ☎046-231-0866
●三浦半島戸陵会	事務局長 伊藤 学 (高30)	横須賀市板が丘1-17-7 ☎0468-34-5311
●御所見戸陵会	会長 長谷川和生 (高10)	藤沢市遠藤651-4 ☎0466-87-9197
●大和戸陵会	会長 座間 茂俊 (高2)	大和市中央林間2-8-3 ☎046-274-3520
●厚木連合戸陵会	会長 石川 範義 (高11)	厚木市飯山4916 ☎046-242-0008
●厚木戸陵会	会長 川田 善久 (高7)	厚木市旭町3-25-10 ☎046-228-0649
●依知戸陵会	会長 櫻井 晃 (高9)	厚木市金田160-1 ☎046-221-2073
●睦合戸陵会	会長 難波 浩 (高11)	厚木市及川2-18-38 ☎046-241-9336
●荻野戸陵会	会長 内田 徳孝 (高10)	厚木市下荻野483 ☎046-241-1646
●小鮎戸陵会	会長 志村 昂二 (高15)	厚木市飯山3588-4 ☎046-241-1946
●南毛利戸陵会	会長 城所 文洋 (高11)	厚木市長谷1221 ☎046-247-6465
●玉川・森の里戸陵会	会長 朝生 旭 (高9)	厚木市七沢1156-1 ☎046-248-0661
●相川戸陵会	会長 大貫 隆弘 (高9)	厚木市戸田471-4 ☎046-229-0075
●清川戸陵会	会長 山田 恵一 (中37)	清川村煤ヶ谷2300 ☎046-288-1131
●新潟戸陵会	会長 青木 茂治 (高9)	新潟市西区西小針28-44 ☎025-266-5928

事務局便り

事務局スタッフ十一名に
本年四月の人事異動で、前教頭の山田和彦先生(高二十四回)が



家族づれてにぎわった地引き網大会

を覚えた。これからも同窓会本部の記念事業としての位置づけと今後とも継続可能なこの大会を皆様のご支援とご協力を得て大切に育てていきたいと御所見戸陵会会長の長谷川和生氏は語った。

愛川高校長にご栄転となりました。また、体育科の大貫隆男先生(高十七回)が三月末日付けでご退職となりました。先生方には長年にわたり同窓会の各種活動に大変ご尽力をいただきました。特に、大貫先生には、百周年記念ではいろういろうなお世話になりました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

編集後記

今年度は十一名の校内役員で諸処の活動に頑張って行きたいと思えます。同窓諸兄のご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会報第四十一号をお届けいたします。今回の会報には、本年度着任された萩原副校長先生、転勤された山田前教頭先生、退職された大貫先生、また、新たに支部会として発足した新潟戸陵会から原稿をお寄せいただきました。今後とも各支部会の活動がますます活発になることを祈念いたします。

今年度から広報委員会を設置し、各支部会より広報委員さんを選出していただきました。今回の会報も各委員さんのご協力で作成できました。ありがとうございました。今後とも、会員諸兄のご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます。

- ・内田憲夫(第三十回・理科)
- ・渡辺 卓(第三十一回・社会)
- ・松岡洋明(第三十七回・数学)